

2 2018年度埼玉県公立入試 今年の入試総括(国語・数学・英語編)

◆2018年埼玉県公立入試 「特徴」・「難易度」・「注目点」総括

【国語】

教科	今年の入試の特徴	難易度(昨年との比較)	その他、注目点
国語	出題形式は例年通り、小説で100字、説明文で45字の記述が出題。説明文は芸術論を扱ったもので、難易度は高め。古典は「徒然草」から出題。	説明文の難化と記述量が増えたが、結果は昨年並み。	記述問題は難化傾向に。読解・言語事項とともに、語彙力を問う問題が増加。作文はグラフ・資料の読み取りが定番だが、全国の最新傾向のものに変わる可能性が考えられるため、要対策。

◆学習のポイント

「文章読解」や「漢字・語句問題」など日頃の勉強の成果が試されます。毎日の学習がものをいう試験になるので、毎日コツコツと、漢字・読解・古文とテーマを決めて、短時間集中型の勉強をしよう。



【数学】

教科	今年の入試の特徴	難易度(昨年との比較)	その他、注目点
数学 (学力検査)	大問1・2が易化し、教科書レベルの取り組みやすい問題が大半を占めた。大問3は規則性の問題。	左記の理由から、平均点は上がると思われたが、昨年とほぼ同じ結果(44.4→44.0)となった。	大問1・2の配点が72点と高いため、ミスが致命傷に。図形問題偏重の傾向は収まり、数に関する問題に重点が置かれる。
数学 (学校選択)	共通問題の配点は47点から55点と増加。証明は「角の二等分線と辺の比」。説明問題の出題はなし。	大問5以外は典型題が並んだため、平均点は上がると思われたが、昨年とほぼ同じ結果(43.2→43.7)となった。	2年間の難度が多く異なるため、次年度以降も関数・図形を中心に高難度の問題で対策をしておく必要あり。


◆学習のポイント<学力検査>

大問1・大問2の問題を落とさない勉強、まずは中1・中2の復習から始めよう。

◆学習のポイント<学校選択問題>

必出の「2次関数」「相似」「三平方の定理」の問題を対策することはもちろん、中学生で学習するすべての単元で、「できる問題はしっかり解く」という取りこぼしを防ぐことが最重要課題になります。

【英語】

教科	今年の入試の特徴	難易度(昨年との比較)	その他、注目点
英語 (学力検査)	難度の高い長文が出題されていた大問4は4つの文を順に読み進めていく形式に変化。	全体的には特に大きな変化なし。 	リスニング問7の問題文が英語で読まれるようになった。英作文は思考力が問われない意見作文が定番。
英語 (学校選択)	2問出題された語順整序はどちらも難度高め。大問4では要約文の空所補充(2語補充)が復活。	記述や空所補充の難度が上がったため、平均点は下がった。	英作文のテーマは「AIをもっと使うべき」という意見をどう思うか。英作文の得点が合否のカギを握るため、記述対策が重要に。

◆学習のポイント<学力検査>

単語や文法などの基礎的な力を問う問題が中心なので、単語の暗記や文法の理解を深めることが最優先となります。特に大問2の単語記述の問題は確実に得点しましょう。また、英語が得意な生徒は、早い段階から長文読解を行い、英文読解に慣れておく必要があります。

◆学習のポイント<学校選択問題>

読解問題で得点を取ることが重要です。埼玉県の高文は「読解力」と「文法力」で解く問題なので、文法の仕組みがしっかりわかっているかを問う問題が多くあります。そのため、日々の演習で取りこぼしを減らすことが重要です。また、英作文は最新&最頻出テーマである「意見作文」を徹底的に対策し、まとまった分量の英文を書けるようにすることを心がけましょう。「AI」「宇宙」「SNS」をテーマにした英文はこれからも出題される可能性が高いもののひとつです。

